

第3回印西市部活動地域移行推進協議会 議事録

日時：令和5年9月28日（木）

13:30～15:24

場所：市役所41会議室

《出席委員》

青木 和浩委員 小暮 文秋委員 渡邊 義規委員 吉野 高明委員
荻原 健一委員 岡本 一弘委員 土屋 茂巳委員 飯島 正義委員

《出席事務局職員》

印西市教育委員会指導課 課長 石川 真樹子
印西市教育委員会指導課 副参事 飯野 晋二
印西市教育委員会指導課 指導主事 山崎 智貴

《傍聴者》

1名

《次第》

開会

1 会長挨拶

2 報告事項

(1) 前回までの協議会で決まった方向性 資料1

3 協議事項

(1) 印西市独自のモデル事業実施について 資料2

(2) 部活動地域移行の周知について 資料3

4 その他

(1) 今後の検討事項 資料4

(2) 他市町の進捗状況

閉会

【議事要旨】

1 開会

司会

皆様こんにちは。本日はご多忙のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。会に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。机上に本日の次第と協議資料がセットになっているもの、別添資料、座席表を配付させていただいております。

なお本日、委員2名におかれましては所用のため欠席するとのご連絡をいただいておりますのでご了承ください。

ただいまより令和5年度第3回印西市部活動地域移行推進協議会を開催いたします。議事に入る前に申し上げます。本協議会は印西市市民参加条例第11条4項の規定に基づき、会議公開に伴う傍聴席の設置と会議録作成のための録音機材を設置して、録音させていただきますことをご了承ください。現在1名の傍聴希望の方がいらっしゃいますので傍聴者の入室を許可いたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。次第1、会長挨拶。会長ご挨拶よろしくお願いたします。

会長

本日は委員の皆様にはお忙しい中、印西市中学校部活動地域移行推進会議に出席いただきまして、誠にありがとうございます。大分過ごしやすくなったとはいえ、今日もこの暑さで運動会の練習をやっている学校もあると思います。また、全国的に小学校中学校でかなりコロナとインフルエンザが蔓延しています。印西市の小中学校ではどうでしょうか。

この会議も早くも3回目になります。前回の協議会でお伝えしましたが、地域移行は考えれば考えるほど難しいということは事実でございます。これから、県内のいくつかの市町村が県のスケジュール通りモデル事業が始まり、いろいろな情報が聞こえてくると思います。印西市もこのような情報をキャッチしながら、地域移行の準備をしていけたらと思います。

前回の協議会では、いわゆる実施主体と運営団体について、委員の皆様にご意見を賜りました。どの組織の団体も既存の業務を抱えながらこの新しい事業を担当するというのは大変難しいというご意見だったかと思えます。現実的には、地域移行の中心なって引っ張っていく組織がないと難しいということを再認識する形になりました。また、他市町村を見てみるとやはり業務委託のような形がスタンダードになりつつあり、こういったところからゼロベースで何かをスタートするという事は非常に難しいと委員の皆さんも実感したところかと思えます。

地域移行のゴールがわからない状況で、印西市としては、令和8年度に地域移行をスタートするという目標がありますが、そこに向けて一步一步準備をしていく必要があると思います。まだまだ多くの課題や未知数な部分がありますし、それぞれの自治体の事情や人口規模もあると思いますので印西市が地域移行で失敗しないように、しっかりと審議をして準備をしていき

たいと思います。本日も委員の皆様には、慎重な審議をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 報告事項

司会

次第2、報告事項に入らせていただきます。前回までの協議会で決まった方向性につきまして事務局よりご説明いたします。

事務局

資料1報告、前回までの協議会で決まった方向性について再度説明させていただきます。前回の協議会も欠席された委員もいらっしゃいましたので、第1回と第2回の協議会で協議して決まった方向性について説明します。

第1回の協議会では、印西市の子供たちに不利益がないようにということにポイントを置いて、協議していただきました。その中で、学校現場や生徒たちに混乱がないように、そして差が生じることがないように不公平・不平等なことが起こらないように、慎重に準備していかなければならないとご助言をいただきました。そこでスポーツ庁や県が示す部活動改革推進期間のスケジュールではなく、慎重に審議準備をしていくことによって、印西市独自のスケジュールで令和8年度中に差や混乱が生じないように、地域移行を果たしていこうという形でまとめていただきました。

第2回の協議会では、部活動地域移行を進めていくために、印西市の中で、実施主体になり得る組織や団体と実際に部活動指導に当たる運営団体になり得る組織や人材について検討をしていただきました。それぞれの立場から実施主体の可能性をご発言していただきましたが、予想はしていましたが、現実問題、かなり難しいという結果になってしまいました。運営団体については、スポーツ協会や、スポーツ少年団から何らかの形で協力していきたいというありがたいお言葉もいただきました。

委員の皆様からいただいたご意見をまとめると、実施主体については、様々な側面から考慮しても、業務委託という形が最善ではないかとのご意見でした。もちろん、業務委託といっても、いろいろな関わり方がございますので、市がどのような部分を業務委託するかについては、今後の検討事項だと考えています。会長挨拶でもありましたが、地域移行は考えれば考えるほど難しい問題だと、事務局としても再認識させられています。なかなかゴールが定まらず、見えない部分も多々あります。また、新たな課題に直面することもあると思いますが、本日もよろしくお願いいたします。

3 協議事項

司会

事務局の説明について、委員の皆様からご質問やご発言ございましたらお願いいたします。

それでは、次に進めさせていただきます。

次第3、協議事項に入らせていただきます。当協議会設置要綱第7条1項の規定により議長は会長が務めることになっております。ここからの協議事項につきましては会長に進行をしていただきます。会長よろしくお願いいたします。

会長

ここからは私の方で議事を進行して参ります。まず、はじめに本日の協議会の議事録署名人ですが、吉野委員と、飯島委員にお願いします。

この協議会も早3回目になりますが、毎回一歩ずつで、なかなか前進しないという現状もありますが、今の状況を踏まえながら確実に一歩一歩進めるということで、着実に議論を進めていこうと思っています。

協議会で定めた方向性で事務局も準備していきますが、まだまだ様々な部分で不透明な部分がございます。また、課題の解決も難しい問題も多々あります。状況によっては地域移行の時期や状況についても柔軟な対応が求められる状況になるかもしれません。全く先が見えてないというところですが、どの市町村もその中で模索をしながら、一歩一歩進めていくということになるかと思えます。部活動改革というのは、教員の働き方改革というのがメインだということはずでにご承知かと思えますが、子供たちに不利益がないというところにポイントを置いて協議していただきたいです。そういった中で印西市の地域移行の現状について生徒や保護者などのように周知していくのかも議題に上がってきますので、今日は委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただきまして、慎重に審議をしていこうと思っております。

それでは協議事項に入らせていただきます。協議事項（1）印西市の事業実施について、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料の2ページ、協議事項（1）印西市独自のモデル事業についてご覧ください。第1回協議会でご審議いただきましたが、印西市部活動地域移行の方針としては、県のスケジュール通りではなく、印西市独自のスケジュールで令和8年度中に休日の全部の部活動を地域移行できるように準備していくということになりました。他市町では、この10月あたりから地域移行モデル事業を開始するところも出てきます。事務局としてはモデル未実施で地域移行の準備をしていくべきなのか、悩ましいところでもあります。もちろんモデル事業の実施についてもメリットとデメリットが考えられますので、それを考慮した上で審議していただきたいと考えております。モデル事業にしても、本格的な部活動地域移行にしても、年度当初の4月から始める方が予算的なことも含め、様々な面で行政的には良いとは思いますが、しかし、実際学校現場の立場で考えてみると、部活動の代替わりになり新チームが始動する夏ころの方が望ましいと考えられます。特にモデルになる3年生が最後の大会やコンクールに向けて活動しようとする4月に地域移行という大きな変革で、組織や運営方針など混乱を招く可能性があります。

事務局サイドの話になりますが、令和8年度中の地域移行を目標に準備をしていましたが、

もしモデルの実施が必要となるならば、今まさに予算申請など準備に入らないといけない状況になっております。委員の皆様には先行き不透明ではありますが、モデルを実施した方が良いのか、それとも当初の方針通り、慎重に審議し丁寧に準備し、令和8年度に焦点を合わせていく方が良いのか、ご意見をいただきたいと思っております。

会長

モデル事業の実施ということで、第1回協議会では、令和8年度中に全体的に一斉にスタートできるようにという形だったかと思っております。一方で、段階的に移行するというのも一つの考え方としてあると思っております。予算的なスケジュール、委託先のこと、他市町のモデル事業の情報など、それぞれの組織の立場でモデル事業を実際にやるべきかどうかという点について今日は議論をしていただきます。もちろん議論の中で、いきなりモデルの実施をやるのは難しいのではないかと思いますし、他市町がモデル事業を実施しているのに、なぜ印西市はやらないのかという部分もあると思っております。その一方で、モデル事業はやれば良いという話ではないということも知っておいた上で、令和8年度の全体移行につながるならば、やる価値はあると思っております。県から提言されているから無理にモデル実施をしようすれば、それこそまさに子供たちに対して不利益を与えてしまい申し訳ないことになりかねません。非常に難しい部分というのが悩ましいところです。

総論的にはおそらく、段階的に地域移行をしていった方が良いというのはわかりますが、各論で見ると、簡単にはモデル実施できるところまでは煮詰まっていないとも思います。モデル実施にあたり、モデル事業の対象の競技、規模、時期、練習場所などある程度決まっておかないと、やはり難しいと思っております。

事務局

印旛管内では、いくつかの市町が10月あたりから、ある市では柔道という競技で、幾つかの柔道部を一つの場所でまとめて地域移行し、また、ある市では市内の中学校の陸上部を外部指導者に委託し地域移行するという形が近隣市町の具体的なモデル実施になります。ある市は業者を使わずに、教育委員会主導で土日に市内の競技場を使って、地域の指導者が指導に当たるという形でモデル事業を実施するようです。市内の中学校の陸上部だけは休日の活動をせず、市内の競技場で活動する形をとるそうです。今年はその形で運営できても、次年度以降は業務委託をしないと難しいとの話を聞きました。

委員

新チームというのは8月からということですか。

会長

令和7年からもし仮にモデル事業を実施するとなると、どんな形でモデル実施をする予定ですか。

事務局

今日の協議会でモデル実施すべきだという話ならば、1つの中学校の1つの部活動のモデルを令和7年度に実施しても、他市のモデルの情報を得ていると思うので、令和8年度からスタートする目指すべきものに近い形のモデル事業を考えています。中学校という枠にとらわれず、種目によって競技者人口が違うので、競技によって印西市内に3チームとか5チームとかと人数に応じて設定した地域クラブに生徒たちが登録して活動するイメージで地域移行を進めようと考えています。

委員

様々な学校の生徒が統合型で一緒になって練習したりすることは賛成なのですが、統合型で複数の学校が同じ地域クラブに属すと大会等の引率などに関してはどのようになるのでしょうか。認識としては間違っていますか。

会長

間違っていない。地域移行のスタートは教員の働き方改革の部分があって、そこには休日に生徒の引率や大会運営など休日に仕事をしなければならないということもあり、もう一方で、少子化の影響で部活動のチームの維持が難しいという問題もあります。大会等の引率の問題もありますが、種目や競技を成立させる部分を軸に考えていく必要があると思います。モデルの実施を拠点校方式にすると、大規模校と小規模校のデメリットが解決できない形になってしまいます。教員側の働き方改革しか是正できないということです。前回の協議会では、印西市に約70の地域クラブを設定すれば、現状の休日の部活動に参加する生徒の受け皿はできるということだと思います。業務委託で人材バンクを使って指導者を確保する流れだと思います。

委員

スポーツ少年団の少年野球がまさにそういう状況で地区によっては子どもが集まらないうと、活動ができない状態です。1つの学区だけではチームが維持できない学校は上手にまとめてやっているチームがあります。

委員

ミニバスケットボールを例にすると、チームを維持できないところと、チームに70人近くいるところが存在します。印西市の場合、市内の地域性の部分もあると思います。それぞれの課題もあって、子どもが多いところにも多すぎるという問題もあります。北総線沿いも今は子どもの数が多いですが、ニュータウン特有の波というか、子供が多いときと少ないときとあると思うので、印西市としては、協議会の中で令和8年度から一斉に地域移行するという目標にしているので、あまり急がなくても良いのかなというのが個人的な意見です。学校の先生方も、子どもたちも戸惑いがないようにしていくのが大切だと思います。この方向性がしっかり固まってくれば、スポーツ協会としてもできる限りの協力はしていきたいと考えています。

委員

できればモデル事業はやった方が良く考えています。いきなり全体で実施というのは難し

いと思っています。中学校的な視点で言うと、夏の総体を終えて新チームになったタイミングで地域移行を実施していくのが適切だと思います。先ほど出た大会引率の件や大会運営など教員が関わらなければならない競技や専門部がほとんどです。その中で土日の活動は地域に預けて、引率に教員も外部の指導者も揃っているのもおかしな話だと感じています。国や県としてまだまだ未定というか、ほとんど何の方向性も決まっていない中で、市としてのスケジュールもあると思います。モデル事業を実施した方が良いと思いますが、やるからには絶対失敗は許されない。子供たちが実験台になってしまう。失敗したら、大きなリスクがあるので、成功させなければいけない。そのための具体的な部分はまだ決められていないと考えています。

会長

モデル事業の競技を選定し、クラブを設置するのは、学校長にゆだねられる部分は大きいのですか。それとも、教育委員会からのトップダウンで決まっているのですか。

委員

今のところは、校長会の中で議論していません。方針が決まっていけば、市教委から校長会に情報が下りてきてものごとを決めていく状況です。校長会が主体的に取り組む課題ではないです。

委員

資料で他市の状況等も見てみると、モデル事業を実施しようとするなら、近隣中核都市の取り組んでいる形の運営方法ができると一番良いのかなと思っています。例えば、近隣市の陸上のモデル実施は、これは多分指導者ありきで話が進んでいると思いますので、それができるなら、モデルの実施も可能だと思います。委員もおっしゃったようにモデル事業を実施した方が良いと思いますが、ただこの予算スケジュールを見ると、予算請求は大変厳しい。となると、もう多分議論の余地がないと思います。他市のように小規模な競技のモデル実施もやれないことはないと思いますがやっても意味がないと思うと現実的には厳しいと思います。そうすると、令和8年の4月に一斉に地域移行が必然的になってしまうのかなと個人的には思っています。

委員

今の委員の意見と重複するのですが、事務局の方に確認させてください。私も行政の現場サイドとしては、きっとモデル事業を実施した方が良いと思います。事務的なものを考えた場合に、先ほど委員がおっしゃったように、予算的なスケジュールがまず間に合うのかが1つのポイントです。もう1つとしては、実施主体、運営主体がまだ定まっていないので、モデル事業として実施主体は教育委員会が担う形になりますが、運営団体を決められていないように、何も決まっていない状況でモデル事業ができるかどうか心配に思います。当初予算に合わせないで、補正予算でのモデルの実施も考えられるので、そういう形でスケジュールを考えてみるのも良いと思います。

委員

モデル事業ならば、補正予算で対応できると思います。個人的には、試行的にモデル事業を実施する自治体があるので、その状況をよく見て、印西市ではモデル事業として実施はせず、参考にしながら、令和8年度の8月から一斉にスタートする方向でも良いと思いますが、モデルを実施すべきか見極められない状況です。

委員

私は、モデル事業はやった方が良いと思います。これまでの協議の中で、地域移行が業務委託の方向性で進めようと動いていますが、業務委託する内容について、印西市がどのような形で委託するかということを整理していく必要があると思います。すべてを業務委託と考えたときに、それだけの受け皿の業者があるかどうか、他の自治体も業務委託を考えた場合、業者が対応してくれるのかどうかの懸念もあります。部活動には団体スポーツと個人スポーツ、文化部などもありますので、もう少し柔軟に、その部活動の内容によっては、地域人材を活用するようなことも視野に、検討の中に入れて方が良いと思いました。

委員

他市ではモデル事業をしているので、令和7年度にモデル事業を実施するという選択肢があると思いますが、このモデル事業をやるかやらないかは、その必要性があるかどうかというのを見極めて判断する必要があると思います。

会長

モデル事業の必要性に関しては皆様必要だということが総意だとは思いますが、実施の方法・活動場所など細かな部分で難しい面もあると思います。実際、学校現場としてはイメージがないのに全部の部活動を地域移行するとなると大変だという感覚もわかります。

委員

モデル実施をすれば、子どもや保護者に地域移行のイメージが湧きやすいというメリットもありますが、失敗はできないという側面もあります。

会長

ただ一方で、先ほど委員が言われたようにモデル事業を実施して失敗してしまうようなことがあると、子どもたちにとってもかけがえのない時間だと思うので。実験台にされたみたいなことを保護者やその生徒が大人になるまで言われてしまうようなことがあると、せっかく考えて準備している事務局も残念な気持ちになってしまうという気がします。

現実問題として、予算が限られている中で慌ただしくモデルの実施をするのはちょっと難しいということと、委員が言われたところが大切なポイントだと思っています。やはりプロポーザルするには仕様書をしっかりと計画していないと、ただ委託しますということでは業者の選定なども進まないと思います。印西市が目指すべき地域移行の在り方のプロポーザルの要件がどのような要件なのかを見極めていかないといけないと思います。見切り発車で始めても後戻りはできません。印西市の今までの進み方が慎重に丁寧にきているので、やはりプロポーザル

の内容もきちんと詰めておくということが大切だと思います、もちろんその中で、令和7年度まで要件が固まってくればモデルの実施も、令和8年度の本格的な地域移行の助走としても良いと思います。

委員

行政のスケジュールはよくわかりませんが、令和7年度のモデルを実施するとしても補正予算で実行することは可能なのでしょうか。

委員

当初予算で始める方法もありますが、12月や3月の補正予算の申請等も考えることはできます。それでプロポーザルを1年とっていますが、例えば半年とかにすれば、8月または9月頃の事業開始もできる可能性もあります。

委員

結局予算がないと何を進めるにしても難しい話です。ただ事務局としては、たたき台として資料にある予算スケジュールとして示していただきました。その中でまた応用が利き、補正予算で実施ができるのであれば、また別の道が開けるのではないかと思います。やはり餅は餅屋ではないですが、行政の予算のことを詳しく知っている方がサポートしていただければ準備していただけると、指導課も教員出身の方が多いいと思いますので、結果として近道になることもあると思います。

委員

委員の言っていた仕様書をどこまで固められるのかが大切です。予算請求の書類を提出するときには仕様が決まっていないと、結局仕様書によって積算しますので、とりあえずお金をくださいとは言えませんので、仕様を詰めて示さないといけません。

委員

部活動地域移行のような今までにない新しい事業の仕様書を一から作成するのは大変です。

会長

現在、全中学校一斉地域移行の仕様書は、世の中に出ているのでしょうか。

事務局

今はモデルの実証事業の第1段階を実施しているので、印西市の目指すべき統合型のスタイルの地域移行の仕様についてはないと思います。近隣の市町のモデルは1校1部活動という仕様書です。

会長

他市町には見ないタイプの先進的な地域移行の形だと思いますので、しっかりと仕様を整え、業者にどのように関わってもらい業務を委託するのかを準備をしていかなければなりません。

事務局

第1回協議会の中で令和8年度を目標に準備していました。ただ、やはりモデルを始めると

なると予算的な都合があるので、この協議会で議題にさせていただき、何らかの形でモデルをやったほうが良いという方向性であれば、例えば、あまり予算をかけずにできるレベルのモデルを、令和7年度にモデルの実施ということも考えないといけません。それがスケジュール的に厳しければ令和8年の4月からモデル実施をして、令和8年度後半から、全部に移行していくなどスケジュールを柔軟に考えていかななくてはなりません。委員の皆様からご意見いただいたものも含めて事務局の仕様書の準備のと、予算積算についての準備を計画していきます。

先ほど、委員からもご発言がありましたが、大会運営や大会の生徒引率の問題もまだ何も解決できていません。現状として、小中体連の大会にクラブの参加を許可する仕組みなっていますが、実際に大会運営をしているのは教員で、クラブでの参加はほんの一部の競技のほんの一部のクラブしか見られません。市として土日に設定した地域クラブの単位で大会参加させるべきか、土日はあくまでも地域クラブでの合同練習で、学校の部活動の単位で大会参加させるべきなのかも考えていかなければならない課題だと思います。自分の学校での部活動では練習できずに地域クラブに登録した生徒がいた場合、学校ごとの大会参加になってしまうと、結局試合に参加できなくなってしまう。大会参加についての問題や課題に対しても、市で規定を定めてからではないと、休日の部活動を地域クラブ化というのも簡単ではないと思います。この点に関しては、印西市だけでは決められるものではないと思います。印旛郡や県など大きな範囲でのコンセンサスが必要だと思いますがそこを決断しているところはないのが現状です。

予算に関しては、様々な形での予算取りの仕方のアドバイスをいただきましたので、仕様を固めていき、モデルの実施も含めて準備していこうと思います。

委員

このスケジュールを考えると、モデル事業を始めた時に、何の結果も出ないうちに次の予算を作らないといけないという課題もあります。

委員

県から示されたものを確認すると令和8年度中に実施ということで、委員からあった新チームになる8月から地域移行をすると考えた場合に、今回この部活動地域移行というのは印西市としても新しい事業なので、当初予算でしっかりと市としての取り組みを示していくべきだと考えます。その前段階で実際にモデルが必要ならば補正予算ということも考えられます。モデルから本番ではなく、本番を示した上でその前段階のモデルという形で準備していく必要があります。

委員

イメージ的には、令和8年度の8月頃の実施が良いと思います。

委員

皆さんがおっしゃるように当初予算の案の方が、議会とか審議で市としての取り組みをアピールすることができるというのは大きいと思います。できれば補正予算ではなくて当初予算が

良いと思います。

委員

市として当初予算を計上して、令和8年度の8月実施が良いのかなと思います。

委員

令和8年度から一斉に地域移行で移行するなら当初予算が良いですね。その前段階のモデル実施なら補正予算で良いと思います。

委員

実際には様々な形での予算の方法があるということです。

再確認があります。モデル実施は拠点校方式ではないのですか。

事務局

違います。市内を1つの母体にして、競技人口に応じた適正数の地域クラブを設定するようなモデルを考えています。とりあえずモデルを実施するのではなく、将来的にイメージしている形の事前段階でモデル事業の実施が必要だと考えています。

事務局

例を挙げて説明します。市内全9校の中学校に陸上部があります。しかし、実態は60人近く部員が所属する学校もあれば、2人の部員の所属で活動している学校があります。9部活動あれば、単純に指導者も9人必要になります。市内の全陸上部に属す生徒数を均等に均すと、およそ6チームくらいが適正数になります。その6チームの地域クラブのどこかに生徒が登録して活動していく形を考えています。その6クラブの活動に外部指導者や兼職兼業の教職員など地域の指導者が配置し指導に当たるイメージで地域移行していこうと考えています。

委員

大会運営や引率の話抜きにすれば、設定された地域クラブの6チームが大会に参加する形になりますね。ただ、大会の主催が学校なのか、地域クラブなのかこの協議会で決まることはないと思いますので、それを考えるのは難しいですね。

委員

無責任な言い方かもしれないですけど、もしモデル実施するなら、人数が多い競技と人数が少ない競技のように差がついたモデルを実施すると様々なパターンのイメージが付きやすいと思います。

会長

そうですね。個人競技と団体競技とか、外部活と中部活とかタイプの違う2つのケースをモデル実施できると良いですね。

委員

ある市での陸上のモデルは市内中学校の陸上部ですよ。

委員

その中学校に複数の学校が集まってモデルを実施しているのですか。

事務局

ある中学校の陸上部の休日の練習に外部指導者が練習の指導をする形をとっています。

委員

印西市が考えている地域移行のケースには参考にならないタイプのモデル実施ですね。

事務局

他市町のホームページや協議会の議事録を確認して公開されている情報を拾うと、武道系の競技の地域移行のモデルが非常に多かったです。武道系の部活動はあっても、武道の専門の顧問の先生がいることが少ないので、部活動に柔道や剣道ができる師範をお願いしたり柔道ができる指導者をお願いしたりする形でモデルを実施しているケースが多いのだと思います。

委員

現在も印西市でも行っている特別非常勤講師みたいな形での運用ですね。

会長

様々な困難な課題がある中で、大変後ろ向きですけど、令和8年度までに何とか形にしていければ良いのかなと個人的には思っています。見切り発車では現在イメージしているような先進的な地域移行の形を達成するのは難しいと思います。

他市に比べればあまりにも消極的でマイペースではないかと思われるかもしれませんが、この協議会の委員の皆さんも令和8年度以降の現実的な姿を想定して議論されているので、現実的に地域移行していく方法として、委員が言われたとおり、令和8年度の8月の新チームから移行する方が現場サイドには混乱がないというのが1つです。モデル事業をやるにしてもやらないにしても、しっかり準備を進めていって混乱なく進められるとは思いますが、千葉県も必ずしも令和8年の4月に完全移行しなければならないということではないと思うので、マイペースであってもしっかり準備していけば良いと思います。

委員

今回、運動部活動の地域移行という中で、練習については業務委託する方向で良いと思いますが、運動部にはやはり大会がつきものですので、大会運営や引率に関しては、ある程度の見通しがないと、拠点校方式にするのか統合型にするのかも変わってくるのかなとも思います。

会長

現在では、小中体連主催の大会でも、競技によってルールが違うようです。それが一律で統一されていないところも問題だと思います。クラブの引率者で良い競技と学校関係者が引率しないといけない競技があります。

委員

部活動が教育の一環だと考えるなら、休日に大会を持ってくるのではなくて、春休みとか夏休みとか冬休みとか、教員が平日に引率できるような時期にそういう大会を持ってくるなどそ

れだけ大きくシステムを変えていかないとどうにもならないような気がします。

委員

一番大きな中学校の大会である全国大会は8月の中旬から下旬にかけてあります。そこから逆算して、関東大会や県総体は夏休みに実施されています。土日の開催もありますが、平日の開催もあります。それ以外の春や冬の大会、新人戦など、長期休業ではない場合は土日での開催になっています。

事務局

予算取りのスケジュールなどのアドバイスもいただきましたので、事務局としてはもう1回その仕様をしっかりと設定していきます。仕様を決めながら、方針や委託内容を考えていくことに舵を切って準備をしてきます。

会長

部活動地域移行というのは市の財政力というのが非常に大きなところを担っていて、受益者負担の方向性で良いと思います。しかし、謝金や保険料などを受益者負担したとしても、運営費や事業費などは印西市の補助がなくては難しいと思います。これからずっと続けていくためには、しっかりとした枠組みと説明できるだけの準備が必要になります。

近隣中核都市が先導して地域移行を行って成功しているという話はいろいろなところから、耳にはしていますが、いわゆる完全業務委託型での実施だと思います。教育委員会が地域移行を主導していくのは現実的には難しいと思います。やはり業務委託をすることを前提として進めば良いというのが今日の協議していただいてわかった認識です。事務局の方も大変だと思いますが、今後も検討、準備をお願いします。

例えば、仕様書を作るためのリサーチをしたり分析したりする会社とかはあるのですかね。教育委員会の先生方が自力で調査、分析、準備していくのが難しいものをコンサルタントしていく会社のようなところがあれば、要するにマーケティング調査して仕様書を作ってくれたりするとスムーズにいろいろな準備に取り組んだりすることができると思うのですが。

委員

きっと分析会社やコンサルタント会社が市の部活動の状況を調査して、印西市のイメージしている地域移行の形を分析してまとめてくれるようなものがあるのではないかと思います。

委員

そのコンサルタントやマーケティングリサーチをするまでにも予算が必要です。

会長

どの自治体も課題山積で前に進むが難しい部活動地域移行ならば、そこにお金をかけて良い形にして分析して段取りしてもらうのも方法としてはあります。ゴールが見えずに模索して前進できないのであればその部分を業務委託するというのも一つの方法かもしれません。

続いて協議事項2、部活の地域移行の周知ということで事務局をお願いします。

事務局

部活動地域移行の周知についてということで、資料の3ページをご覧ください。前回の協議会で、他市のモデル事業が始まってくると、印西市ではどうなっているのかと印西市の子どもたちや保護者からも地域移行についての質問や要望が出てくると思います。現段階の印西市部活動地域移行の進捗状況を周知するための資料を今回作成しておりますので、資料をご覧くださいご助言いただけたらと思います。

まず一つ目が、別添1印西市の地域移行の進捗状況を示すリーフレットです。まだ大きな方針しか決まっていませんので、詳細については触れられませんが、印西市の地域移行についての進捗状況や準備、アンケート結果を掲載し発行していこうと思っています。保護者へスクリーンというメール配信を行い、学校や公共施設等に掲示し、ホームページに公開して周知していこうと思っています。

次に別添資料2にはいくつかのポスター（案）を載せました。印西市の地域移行に関心を持ってもらい、地域移行がどんなものかを知らせるポスターを作製しました。関心をひくポスターの中にQRコードを載せ、リーフレットや協議会の議事録にリンクするような形をとっていきます。学校や公共施設に掲示していただく予定です。

別添3と別添4が、生徒向けのアンケートと保護者向けのアンケートです。このアンケート結果等をリーフレットやポスターで印西市の市民の方、保護者・生徒児童に、周知していく形で考えています。協議会の承認を得て、校長会で学校に周知し、リーフレットの配付やアンケートの実施を学校に依頼していきたいと考えています。リーフレットの配付から時間を取り、印西市の地域移行のイメージを持ってもらってからアンケートを実施する予定です。そのアンケート結果を基に12月の第4回の協議会で今後の課題や方針を設定し検討していけるようにしていこうと思っています。さらにリーフレットとしてお便り形式で進捗状況を知らせる形で情報公開していきます。

委員

テレビ番組や映画のポスターのパロディーのように作成するなら、著作権的にテレビ局や映画配給会社に確認する必要がある場合もあるかもしれませんね。

委員

ポスターの中にQRコードを付けるのであれば、文字ばかりではないインパクトのあるポスターの方が良いと思います。

噂だけが先行していて、特に子どもたちも保護者もどうしたら良いのだろうと知り合いからも聞くことがあります。やはり不安があるみたいで、下手なことも言えないし、ある程度の安心できるような方向性を示してあげるだけで、保護者も子どもたちも納得できると思います。

会長

アンケートをGoogleFormsでやるのは、子どもたちや保護者は活用できるのですか。

委員

小学生もタブレット端末を使いこなしているのですか。

委員

大人よりはるかに子どもたちのほうが使いこなせていますよ。ただ自分で勝手にアンケートに回答しておこうでは乱暴だと思いますので帰りの会や学活など時間をとってアンケート実施をすることは可能です。アンケート対象が4年生の児童になっていますが、4年生が部活動のことを理解するのは難しいと思います。現実的に中学校や部活動を意識する6年生へのアンケートで良いと思います。

事務局

では、実際には地域移行の対象にはなりません、部活動の実態ということで中学1、2年生と小学6年生を児童生徒向けアンケートの対象にします。

会長

令和8年度地域移行開始となると、現在の4年生や5年生あたりが該当になるので、子どもたちにはアンケートをとらなくても保護者の意見は確認しておきたいと思います。委員がおっしゃっていた当事者の不安が一番大きいわけですから。うちの子の部活動はどうなってしまうのと感じている方もいらっしゃると思います。

事務局

では、保護者へのアンケートは、小学4年生から中学2年生の保護者を対象とします。

会長

既存のクラブや地域クラブと言葉だけでは難しいニュアンスがありますね。

事務局

リーフレットとアンケートに示している地域クラブというのは、業務委託するにしろ、教育委員会が主導で設定するにしろ、部活動の代わりに受け皿として設定しようと考えているクラブを地域クラブと呼んでいます。例えば、ラグビースクールは既存のクラブということになります。地域クラブ（休日の部活動の受け皿）と既存のクラブという違いなのですが、表現として難しいですね。学校部活動を地域に移行するわけですから、ゆくゆくはどちらも地域のクラブということですが、現段階では表現の違いを出しています。その違いを子どもたちや保護者が理解するのは難しいですが、将来的には、上手になりたい、強くなりたい、勝ちたいと競技を極めていこうと思っている子は外部のクラブチームに属すようになり、週1回程度、適度に競技に取り組みたい子は地域クラブに登録するような選択が出てきます。究極的に将来としての展望は、既存クラブも地域クラブも区別なく、様々な地域のクラブから子どもたちが自分の活動場所を選択する時代になっていきます。

委員

そうすると根本の話になってしまいますが、部活動というものが学校教育ではなくなると、

地域に移行するのに行政がお金を出さなくちゃならないのかという話になってしまいます。

事務局

この「部活動地域移行」というタイトルが難しさを物語っています。休日の部活動を学校活動ではなくして地域に移行する計画なのに部活動という言葉が残っています。結局どういふことなのかわかりづらく理解しがたいものになっています。部活動を廃止して新たな形で活動するのではなく、部活動の現状を残しながら、移行できるように地域クラブ化していくことでどっちつかずの状況で準備しているので余計混乱しやすい状況になっています。

会長

いずれ学校活動ではなくなると、小中体連主催の全国大会が廃止になり、交流戦程度の試合で終わる時代になってしまう可能性もあるということですね。大変長くなりましたが、本当に考えれば考えるほど難しい問題です。本日の協議はよろしいでしょうか。

4 その他

司会

ご協議どうもありがとうございました。では続きまして次第4、その他を事務局から連絡がごございます。

事務局

資料4、今後の課題・検討事項ということで、この場では、運動部・スポーツに関する議論は進みますが、やはり吹奏楽部の話題にはならないので、吹奏楽部など文化部活動を移行するためにはどうすれば良いのか考えていきたいと思っております。

二つ目は民間委託業者ということで今日仕様書の話ありましたが、今後印西市がどの部分をどのように委託するのかということも含めて、準備して、ご承認いただきたいと思っております。

三つ目が費用、受益者負担というキーワードも出ておりますが、市が補助するのかしないのかとか、徐々に仕様が決まってくると、今後の協議していただくこととなります。その方針をもとに次の段階へと進んでいきたいと思っております。

司会

では他に委員の皆様から連絡事項がございましたらお願いいたします。

委員

先ほどの今後のスケジュールで検討事項がいくつかありましたが、12月18日の第4回の協議会だけで大丈夫なのでしょうか。

事務局

もし追加の協議が必要な場合、第4回協議会で今後の協議会を調整し提案させていただくことがあるかもしれません。

5 閉会

司会

以上で第3回印西市部活動地域移行推進協議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

令和5年度第3回印西市部活動地域移行推進協議会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和5年12月18日

委員 吉野 高明

委員 飯島 正義